



立て心よ 行け私よ

No. 12

文責:

校長講話より ○○文庫

2月 14 日の校長講話より

今日のお話は、一人の中学生の命とその父親に関わる内容です。いつも以上に真剣に聞いてくれるとうれしいです。これから紹介することは、その中学生のお父さんの許可を得て皆さんに話すことを、始めに言っておきます。

皆さんはこの写真がどこの場所かはわかりますか？
そうです。墨坂中学校の図書館です。そこには「○○文庫」と表示がされています。その文庫にある本の多くは「命」や「思いやり」「命をも奪ってしまういじめの重大さ」等 に関わる本です。その文庫の説明書きには、次のように記されています。

平成 18 年 10 月、当時墨坂中学校2年生だった さんは、所属する運動部の活動中に心停止となり、翌 11 月に天に召されました。ご両親は深い悲しみの中にもかかわらず、 さんの校友や同世代の生徒の皆さんに、 さんの分まで生きて、学び、社会貢献できる大人に育てて欲しいとの崇高な願いのもと、文庫を寄贈されました。私たちは、これを「○○文庫」と名付け、ご家族の思いを引き継いで、いつまでも大切に利用させていただきたいと思えます。

もう少し詳しくお話しします。

平成 18 年、今から 17 年前です。その 10 月 23 日(月) 16:00 頃。当時、墨坂中学校2年生だった さんは、担任の先生との教育相談後に、女子ソフトテニス部の活動をするために、友人と一緒にテニスコートへ移動し、部活動に参加しました。その友人の話によると、当時、本人は体調不良を訴えていたようです。往復ダッシュの練習中に倒れ、一度は起き上がって走るのを再開しました。しかし、再び倒れ、動かなくなってしまいました。事故当時、その場には外部指導者がいて、すぐに先生を呼びに行くように指示を出し、職員室にいた先生全員でテニスコートへ向かい、心肺蘇生や救急車要請などの対応にあたったとのことでした。その後、須坂病院へ搬送されましたが、1ヶ月間危篤状態が続き、ご両親を始め、全校の願いも叶わず、心室細動により、11 月 29 日に亡くなってしまったと言う事実です。



17 年前に、こうしたことが墨坂中学校にありました。一人の中学生の命が失われた事実は、本当に痛ましく、悲しく、切ないことです。自分がその親だったらと思うと、どこにその悲しみをぶつけていいのかわからない自分がいます。

しかし、先にも述べたように、 さんのお父さんとお母さんは、 さんの友達やクラスメート、同世代の生徒の皆さん、さらには今後、墨坂中学校に入学してくる全ての生徒の

皆さんに向けて、 さんの分まで生きて、学び、自分自身や友達、さらにそれぞれの命を大切にしたいということ、そして、社会に尽くせる大人に育って欲しいとの崇高な願いのもとに、この文庫を寄贈されたのです。その方のお名前は、 さんと言います。

もう一つの事実を話します。今年度、墨坂中学校に校門が新しく建てられました。昇降口のデジタルサイネージや学校ホームページでもお知らせしたように、この校門は本校の全ての卒業生で組織されている墨坂中学校同窓会の皆さんにより建てられたものです。その同窓会の今の会長さんが、実を言うと先ほどの、さんのお父さんである さんなのです。 さんは、あなた達のために、墨坂中学校の生徒のために、同窓会の先頭に立って、この立派な校門をつくってくださったのです。



そうした事実に対して、私だったらと考えてしまいます。自分の子どもがこの中学校の活動中に亡くなってしまったという事実に対して、墨坂中学校には前向きになれない、ともすれば墨坂中学校のことは忘れてしまいたい、関わりたくないと思ってしまうのではないかとことです。しかし、 さんはそうではありませんでした。〇〇文庫の寄贈、そして同窓会長を引き受けられ、校門まで建ててくださったのです。

そこには、墨坂中学校の全ての卒業生、つまり同窓会の皆さんを代表して、 さんのお父さんである同窓会長の さんの思いが、再び込められてると思うのです。「墨坂中の生徒一人一人が さんの分まで生きて、学んで欲しい」という思いや願いです。

皆さんが毎朝この校門をくぐりながら、「今日も一生懸命、勉強するぞ、友達と心を通わせるぞ、部活頑張るぞ、学校生活を楽しむぞ」と思って登校してくれること、そして、帰りには「今日も一日、頑張って授業ができたな、今日の数学の授業でわからないことがわかったぞ、総合では今まであまり話したことのない◇◇さんと一緒に活動できてよかったな、今日あった楽しかったことを、家に帰って話そうかな」などと皆さんが思いながらこの校門を後にして欲しいという思いや願いなのでしょう。

ぜひ、この事実と さんの思いや願いを、今の墨坂中学校の生徒の皆さんに知って欲しいと思って、お話ししました。

ぜひ、〇〇文庫の本を一人でも多くの皆さんに読んでもらうことで、自分と友達の命の大切さについて考えて欲しいし、毎日校門を通る中で、同窓会を代表しての さんの墨坂中学校や墨坂中学校生徒に対する崇高な思いや願いを感じて欲しいと思います。

最後に「〇〇文庫」にある金子みすゞさんの絵本の中から「こだまでしょうか」という詩をを紹介します。



「遊ぼう」というと「遊ば」という。
「ばか」というと「ばか」という。
「もう遊ばない」というと「もう遊ばない」という。
そうして、あとでさみしくなって、
「ごめんね」というと「ごめんね」という。
こだまでしょうか、いいえ、だれでも。

隣の友達、クラスの仲間、学年の友達、全校の仲間、そして、自分を大切にしたいですね。

立志式 自律のためのスタートライン

2月5日(月)、墨坂中学校の伝統行事のひとつである2学年立志式が挙行されました。「全体の部」では、美術部員が制作したステージバックが披露され、学年代表あいさつ、立志の歌「立て心よ」の披露、学級代表の発表、校長先生からの激励の言葉がありました。その後、クラスごとに教室で行われた「学級の部」では、一人ひとりが、クラスの仲間と保護者の皆様の前で、立志の決意を發表しました。

アフター・コロナの今年は、事前学習に力を入れてきました。例年通り、須坂市教育長 先生から「立て心よ」の合



唱の指導をしていただきました。先生は、墨坂中学校の元校長先生で、「立て心よ」の制作を依頼して下さった方でもあります。さらに、長野県警察本部からスクールサポーター さんをお迎えして講演をしていただいたり、立志式を迎えた先輩たち(昨年度立志式を迎えた本校の3年生・4年前に立志式を迎えた現高校3年生)の経験談をお聞きしたりする機会もありました。より多くの方の声を聞きながら、自律のためのスタートラインを自分自身で引いた2学年生徒一人ひとりのこれからの行動に心から期待しています。

中学校説明会 先輩になる準備

2月6日(火)には、本校を会場に、来年度墨坂中学校に入学する小学6年生とその保護者のみなさんを対象にした中学校説明会が行われました。前日夜からの雪のために、開催が危ぶまれましたが、無事開催することができました。

中学校説明会の第1部は、1学年の学年生徒会が中心になって進めました。オープニングは、1年生全員での校歌合唱です。パートによっては出しにくい音もあるはずですが、堂々と、体育館いっぱいに歌声を響かせることができました。続いて、墨坂中学校の生活についてのステージ発表です。こちらも、ただ説明するのではなく、季節ごとの服装を示したり、部活動のユニフォーム姿を見せたりと、中学校生活をイメージしやすいように工夫をしていました。こうした経験が、三年生を送る会や墨坂祭の演出、生活オリエンテーションでの伝え方の工夫にもつながっていくと思います。ぜひ、経験を積み、工夫を重ねていってほしいと思います。



能登半島地震義援金と縦割り清掃

2月5日(月)～2月13日(火)の間、JRC委員会による、能登半島地震災害義援金の募金活動が行われました。もともと JRC 委員会では、年間計画でユニセフ募金を計画していたのですが、能登半島地震についての報道を目にした生徒たちから、「能登半島で被害に遭った方たちに対して、自分たちにできることをしたい」という声が自然にあがってきたために、目的を一部変更して実施されました。

担当の生徒は、朝早くから、寒い中でも昇降口に立って呼びかけ、義援金を集めました。また、2月5日(月)の授業参観日には、学年PTAの会場でも募金の呼びかけをさせていただき、保護者の皆様からもあたたかいご協力をいただきました。ありがとうございます。一人ひとりの善意が集まると、大きな支援が実現します。期間中に集まった義援金 25,892 円は、日本赤十字社長野支部を通して、被災した方たちの支援に使われます。

2月13日(火)からは、整美委員会の計画で縦割り清掃が行われました。今回の縦割り清掃は、「他学年の姿を見て学び、自分たちの清掃をよりよくする」「3年生からひざつき4回がけ清掃の伝統を引き継ぐ」の2点を目的にし、2年生がリーダーとなって行われています。慣れないせいかぎこちなさも見えたリーダーも、上級生や仲間たちの支えもあり、毎日の振り返りの会を堂々と進めるようになりました。縦割り清掃後のクラスごとの清掃に活かしてくれることを期待しています。



HIT防止研修

今年度も、県内外教職員による不祥事があり、皆様の学校や教育に対する信頼を損ねるような残念な状況が見られています。墨坂中学校では、非違行為・いじめ・体罰を防止するための研修(HIT防止研修)を継続して実施しております。今年度は、これまでに、体罰や暴言の防止・いじめ防止・性暴力の防止・安全管理(ヒヤリハットリスト作成)・飲酒運転の防止・パワーハラスメントの防止・個人情報の管理の徹底等についての研修を行ってまいりました。

これからもさらに研修を積み重ね、教職員による非違行為・いじめ・体罰等が起こらないように全力で取り組んでまいります。皆様のご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○学校生活について、心配なことや不安なことがありましたら、遠慮なく学校までご連絡ください。
学級担任はもちろんのこと、教頭や養護教諭もお話をお伺いします。(墨坂中学校:TEL026-245-0564)
また、下記の相談窓口にご相談いただくこともできます。
24時間子供SOSダイヤル 0120-0-78310
子どもの人権110番 0120-007-110
LINE相談窓口「ひとりで悩まないで@長野」
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kokoro/happyou/220629press.html>